

令和7年度 第3回 南陽中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月6日（金） 13時45分から15時30分まで
- 2 開催場所 南陽中学校 会議室
- 3 出席委員 加藤裕之・鈴木和枝・岡田真澄・赤星順子（学校支援コーディネーター兼務）
- 4 欠席委員 増田哲也・増田亜美
- 5 学 校 松下直由（校長）・高塚陽子（教頭）・石塚琢磨（教務）
三高奈緒子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 1人
- 7 会議録作成者 CSディレクター 三高奈緒子
- 8 議長の選出
互選で加藤裕之委員が議長を務めることになり、全員異議なくこれを承認した。
- 9 協議事項
 - (1) 学校関係者評価
 - ・学校の自己評価説明と改善策について
 - ・次年度に向けての熟議
 - (2) 次年度学校運営の基本方針について
 - (3) 学校運営協議会の自己評価

10 会議記録

司会の教頭から、委員総数6人のうち4人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価

学校関係者評価について教務から説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・授業態度は良好ですが、家庭学習の定着が課題となっています。一方で約6割の生徒が家庭での学習習慣が身につけている回答しています。授業だけで満足しているのか、やりたい気持ちはあるが生活リズムの中で難しいのかなど、生徒一人ひとりはどうに思っているのでしょうか。（鈴木委員）

→国語科では毎週の漢字書き取り3ページの課題とミニテストを通じて基礎学力をつけるのはもちろん生徒に自信と達成感を持たせてあげたいと考えていますが、課題提出を苦しいと感じている生徒もいます。部活動で帰宅が遅くなることもあり、家庭ではのんびりしたいというのが本音です。居残りという言葉を出すと一生懸命しますが、嫌々やるようになり悪循環です。あの手この手じゃないと苦しいです。（教頭）

→生徒は自分なりにやっていると感じていますが、保護者から見るともっとできるはず感じていると評価のギャップがあることがグラフから読み取れます。学年が上がるごとに向上している部分が多いので、それなりに子供たちは自分たちの生活の中で時間を確保していく様子も見取れます。（教務）

・子供は勉強をやっているつもりだけど、親から見ると学習量や定着度が不足しているように見えます。本人はやっているつもりなので親としての声掛けに迷います。三者面談でも相談させていただきました。今の子は自己肯定感が高いのですこしやると満足してしまう傾向があるようです。勉強自体は嫌いではないですが、やり方がわからず、こつこつ取り組む姿勢が少し足りないです。今の子に適した勉強法を子供同士や先生も交えて意見交換する機会があればいいと思います。授業での基礎学力定着については家庭からは見えにくい部分もあり、子供の様

子を見ているとそうかなと、ふんわりした思いで「そう思う、だいたいそう思う」と意見に自分はさせていただきました。（赤星委員）

- ・以前もお話ししましたが靴箱の整頓や挨拶など学校の雰囲気は非常に良いです。この評価の数字も 80% 90%以上が多く、かなりいい評価を受けてもいい中学校です。先生方も全部がんばってくださっているなど印象を受けます。（加藤委員）
- ・子供を見ていると、提出物を期日までに仕上げたいと捉え、身につけることよりただ埋めるだけの作業になっていると感じることがあります。（岡田委員）
- ・研修において ICT 活用はもちろんですが、とありますが、学校の業務で生成 AI の利用により問題は出ていますか？研修でも取り上げられていますか？（加藤委員）

→浜松市でもこの秋から教員用タブレットに生成 AI が入りました。子供たちが持っているタブレットには入っていません。生成 AI は嘘をつくこともあるという批判的な視点を持つことが大切です。作られたものが自分の伝えたいことになっているか吟味しないといけない。来年度の研修に盛り込むつもりです。（校長）

- ・セキュリティや著作権の問題などいろいろありますが、教材作成や教員研修の資料、文章作成などに上手に使えると、校務の軽減、働き方改革につながりますね。（加藤委員）
- ・大人は真偽を経験の中から考えることができますが、生徒は判定が難しいでしょうね。本当に正しいかと疑ってみる目を学んで子供の中に育てているか、現状はどうですか？（鈴木委員）

→個別の対話や見とりを通じて手探りで確認しています。検索で AI 機能を活用している子もいます。自力で作成したか判断します。活用することが悪いわけではなく、AI 利用を隠す必要もなく、できたものをどう扱うかだと個人的に思います。（教頭）

→2学期に授業の中でタブレットを使ってレポートを作成しました。教科書やノートで完結するレポート作成において、あえてタブレットの使用を許可し情報を探させました。たくさんの情報の中から正しい情報や要点を適切に選別できる生徒と少し苦手な生徒もいます。実践を繰り返しながら長期的に育てていく部分だと感じています。（教務）

- ・自分一人で完結せず、生徒同士で見せ合ったりグループワークやプレゼンをしたりする中で、情報の誤りや違和感に気づくことを期待しています。（鈴木委員）
- ・ICT の進展により子供たちの書く力が低下しているという学者の指摘があります。ある外国では書くことは考える力を育てることにつながるから、あえて書くことを重視する教育に少し切り替えるとニュースで聞きました。子供たちの書く力（漢字やアルファベットを書く力、あるいは思考力を含め）の低下を感じることはありますか？（加藤委員）

→作文を 400 字原稿用紙に書きなさいと言うと進まないですが、タブレットだと黙々と入力し、あっという間にどの子も書きます。消去や修正が楽な分、書くということ自体に苦手とか面倒くさいというのが、浸透してしまっていると感じます。（教頭）

- ・教職員の評価の欄に、生徒指導的な問題はもちろん学校全体の課題に対して、組織的かつ迅速な初期対応の体制が整ってきています。とあり、本当にありがたいです。（鈴木委員）

（2）次年度学校経営方針について

校長から別紙資料に基づき説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・すごくいいなと思ったのは、評価観点の見直しです。ルーブリック（評価基準表）を我々の時代も作っていましたが、生成 AI に読み込ませれば作れるのですね。（加藤委員）

→私もいろいろと試していますが、先日の研修で学びましたが、プロンプトがしっかりしていればいるほどこちらの意図しているものができます。（校長）

・何時間もかかって作成し議論して作り上げていたものが、すぐにできる。それを本当の意味で使えるか吟味しないといけないですが、叩き台があると、違いますね。（加藤委員）

・当たり前 10 箇条が道徳の価値項目とタイアップさせることを考えているわけですね。これを活かしてやっていけばいいですね。これもすばらしいと思います。（加藤委員）

・教員育成というところで、世代観はそれぞれの良さがあるって、うまくそれがかみ合わないといふ成果があがらない。上手にうまくかみ合うといいなと思いました。それを正面から取り組んでいく方向が見えてありがたいと思いました。（鈴木委員）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会自己評価について

・今年度の目標にもありましたが、協議会としての、協議会独自のところが足りなかったと A I でも出ているので、来年度は協議会独自の具体的な手立てを一つでも実践していきたいです。（鈴木委員）

・昨年度に比べて発信ができたと思います。地域との繋がりは芳川クリーン作戦や大凧作りなどできていると思いますが、さらになると具体的な案はなく申し訳ないのですが、何か小さなことでも見つけられるといいと思います。仕事先で学校運営協議会と言っても伝わらないです。学校運営協議会（CS）という名称や役割が浸透していないことが課題だと思います。コミスクへの理解がないと地域を巻き込むところまでいかないと思います。（赤星委員）

・A I は素晴らしいですが、どこか寂しくも思います。取り組みがどんな変化につながったかなど、保護者や地域の方にもっと共有ができれば、配信ができればもっと変わるかなと思いました。まだその方法が模索ですが。（岡田委員）

→保護者へはさくら連絡網がありますが、地域住民へは回覧板以外で届く発信方法を模索する必要があります。ホームページに情報が載っていますよと紹介しますが、なかなか見てもらえません。学校だよりに QR コードを載せると、見てくださる人が少しは増えるかもしれない話を伺って思いました。（教頭）

11 その他報告事項等

・夢育やらまいか事業：外部講師による進路講話、大凧作り、和太鼓指導などキャリア教育や地域交流に、CS 加算分を含む約 13 万円の予算が執行されました。（教頭）

・次回会議：第一回協議会を令和 8 年 5 月 28 日木曜日 13 時 45 分～15 時 30 分に 3 階会議室で開催する予定です。（教頭）

・委員の交代：赤星委員が今年度で退任されるため来年度の新 P T A 会長への協力依頼を行う予定です。（校長）